

# はじめに

平成24年からおこなっている杵築中学校校舎建て替えに伴う発掘調査の場所（杵築市杵築1番地）は、江戸時代を通じ、藩主御殿があった場所です。

現在、藩主御殿の南側、模擬天守がある台山にあった城は、元和元年（1615年）の一国一城令で壊されてしまいました。

それ以降、台山の北麓である【杵築市杵築1番地】が、本丸御殿・城内として意識された場所です。いわば城下町きつきの【心臓部】というべきところといえます。周辺には江戸時代の御殿の庭も残っていて、その庭自体の評価も高いものです。

今回の発掘調査でこの北麓区の開発は16世紀後半まで遡ることが分かってきました。絵図面もなく、今回の調査での新知見です。そのほか、下のような重要な発見がありました。

今回のシンポジウムでは、この杵築城藩主御殿の調査成果を、広く一般に公開し、その歴史的重要性を広く周知し、学術・教育・観光など各方面から保存と活用を考えます。

これらをとおり、杵築城藩主御殿だけではなく、台山の城や御殿の庭、町屋・武家屋敷など、城下町全体を含めた「まちづくり」を考えたいと思います。

おわりに『木付』から『杵築』への表記の変更は、正徳2（1712）年ですが、便宜上『杵築』を使用する場合もあります。

## 会場までのご案内



大分空港より車で25分  
 杵築駅より車で10分  
 別府観光港より車で35分  
 杵築バスターミナルより徒歩5分



家紋入り鬼瓦  
 (台所門付近から出土)



南東上空から杵築城下町を見る



江戸時代後期に描かれた絵図面(杵築城にあります)



発掘現場を上空からみる(現場の上側にはきれいな庭)



伝わる絵図面にも「櫻馬場」とある馬場の痕跡。  
 馬場の下部構造まで分かる例は全国初。



発掘現場で出現した御殿本体を囲う御殿長屋。藩主御殿の発掘は全国にもまれ。



豊臣期の高石垣、野面積み(九州最高級)。  
 向かって右端は、檜状になっている。下側は旧海岸線であるため、「船入り」と考えている。  
 これが、築城された折は、朝鮮出兵のまっただ中である。軍事・物流の拠点・発信地としての木付城が浮かび上がってくる。日本史的にも重要。



船入?



御殿の一角をなす御殿長屋の礎石下から、杭痕。御殿の下部構造が分かる例で、木杭の使用例は全国初の発見。杭の材質は、やっぱり、松(クロマツ)。